

Fukuoka Growth

2014.10

データでみる福岡市の“上昇気流”

Version1.1



内閣府が7月に発表した通り、国内経済は「アベノミクス」効果で、GDPの成長やデフレ脱却、雇用情勢などで改善傾向がみえ始めています。

特に福岡市では、ここ数年、さまざまな指標において「増加」や「上昇」を示すデータが増えています。

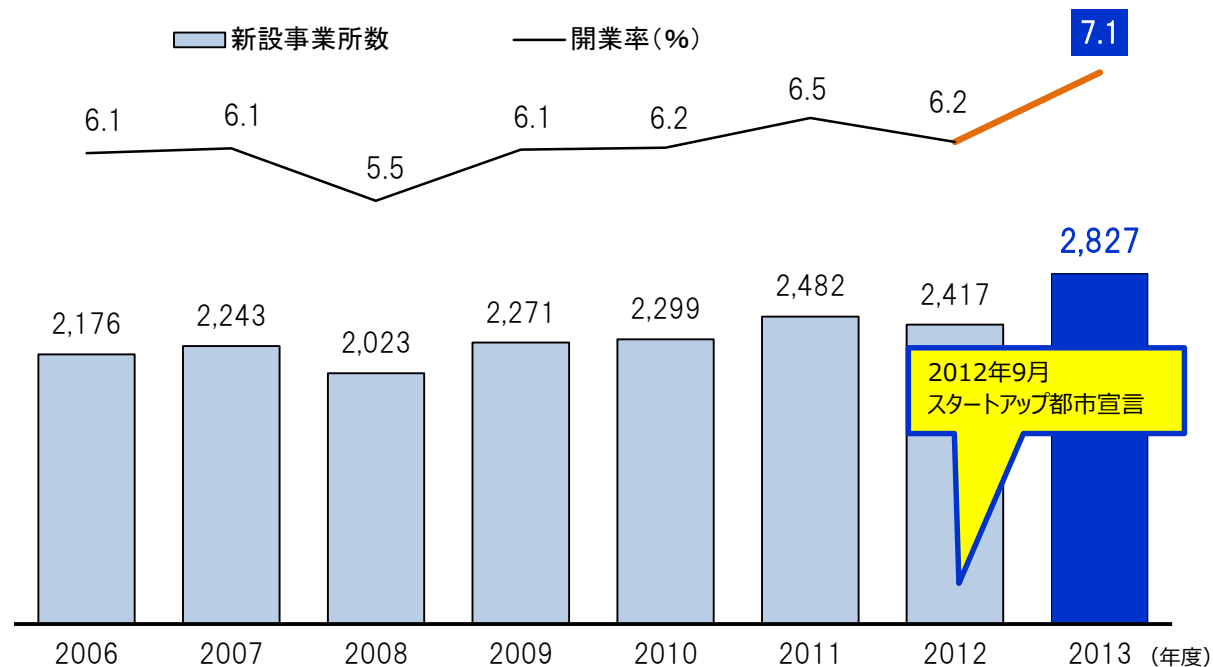
新設事業所数は、平成25年度には直近の平均開設数を428事業所上回る2,827事業所と、過去10年では最高の開設数となり、これに連動して開業率は前年比0.9ポイントのアップの7.1%で、主要大都市中1位となりました。この新設事業所増加分（428事業所）による経済波及効果は、約420億円（推計）となり、「スタートアップ都市」のさらなる可能性を予感させる結果となっています。

このほか、雇用資格取得者は前年比1万人以上の増加、オフィスビル空室率の改善、ホテル稼働率の上昇など、既存企業等を含む経済面での明るい兆しが見え始めています。

このような上昇気流は、グローバル創業・雇用創出特区の活用とともに、周囲を巻き込みながらさまざまな相乗効果をもたらし、地域全体の大きな成長に結び付いていくことが期待されます。

増える「スタートアップ」。開業率上昇・新設事業所数増加

福岡地区の開業率・新設事業所数の推移



資料:福岡労働局

*福岡市を含む職業安定所を全て合計しており、福岡市以外も一部含まれる

2010-2012年新設事業所数平均: 2,399事業所

2013年度事業所数: **2,827事業所** (過去10年で最高*) → **428事業所の増加**

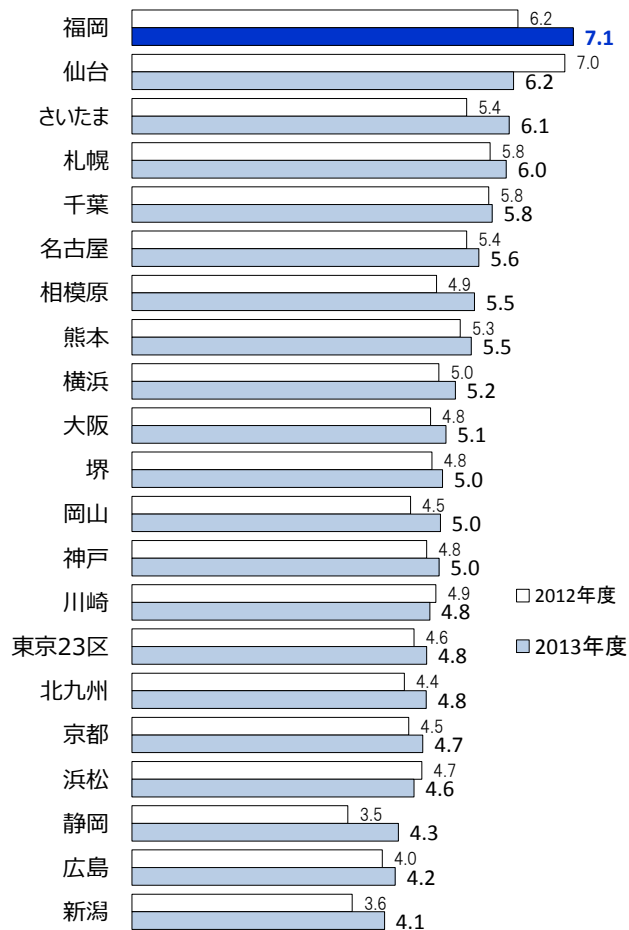
*グラフには掲載していないが2004年値、2005年値を含めても最高値

428事業所増による**経済波及効果総額: 約420億円***

*平成21年経済センサス基礎調査・平成24年経済センサス活動調査、福岡市民経済計算、福岡市産業連関表よりURC推計

開業率大都市（政令指定都市＋東京23区）中トップ

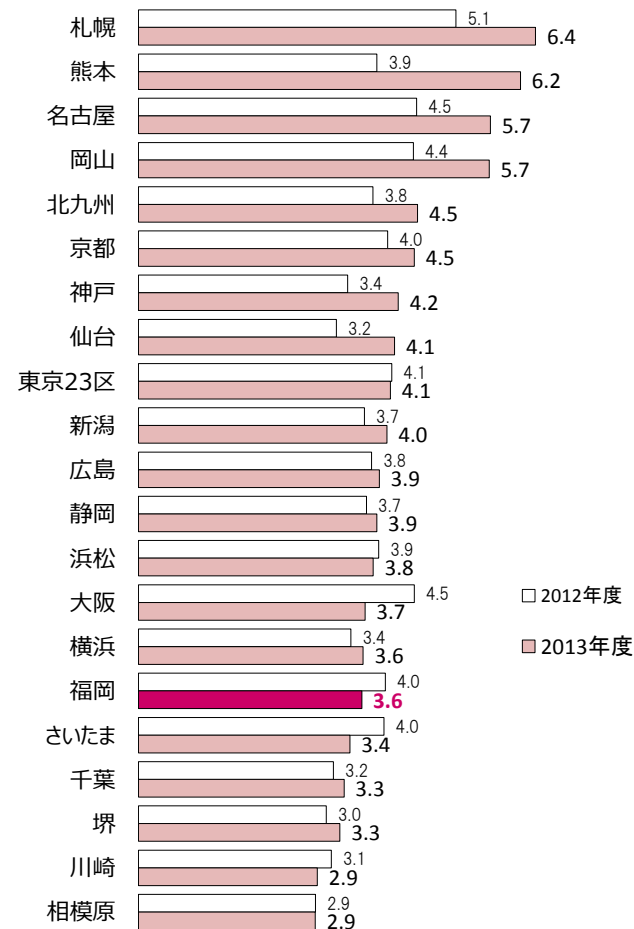
開業率大都市比較(2012・2013年度)



資料：各都道府県労働局

*各労働局とも、職業安定所単位で当該市域を含むエリアを全て合計しており、行政区域とは一致しない

廃業率大都市比較(2012・2013年度)



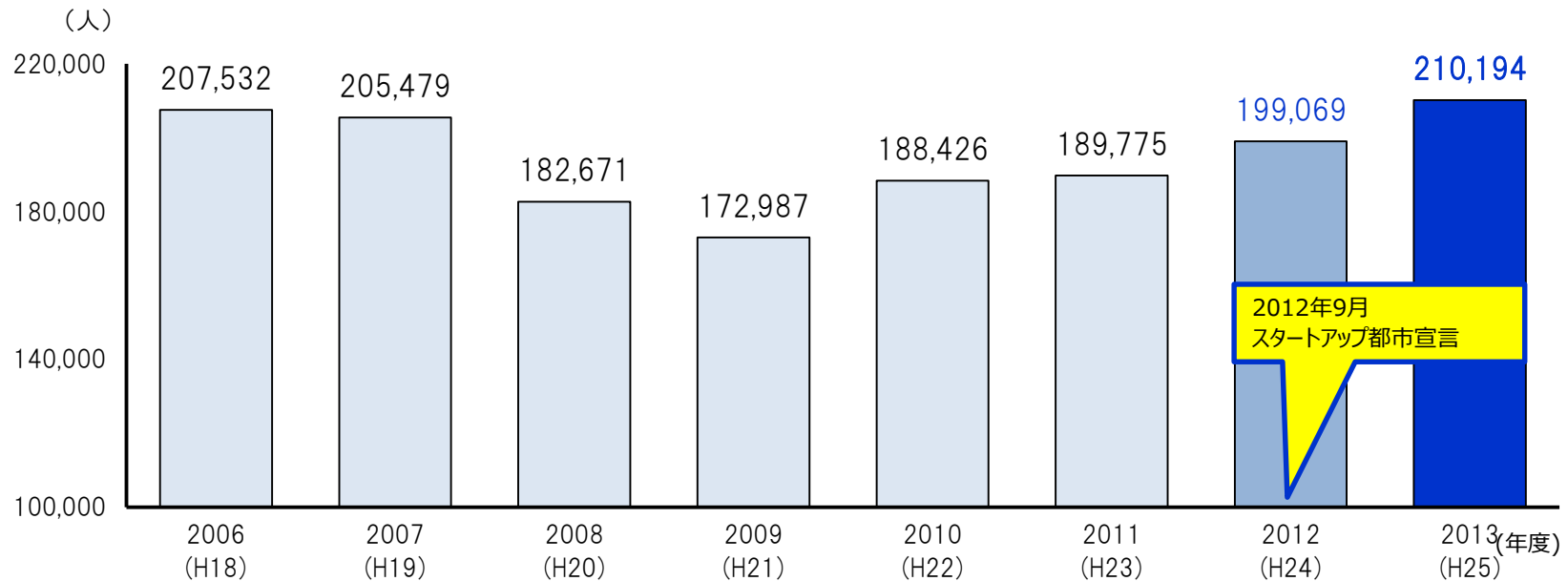
資料：各都道府県労働局

*各労働局とも、職業安定所単位で当該市域を含むエリアを全て合計しており、行政区域とは一致しない

他都市の開業率が前年比0.2ポイント前後の伸びであるのに対し、
福岡市は前年比でも0.9ポイント増と最も大きな伸びを見せています

雇用保険資格取得者・前年比1万人超の増加

福岡地区の各年度の雇用保険資格「取得者」数推移



資料：福岡労働局資料よりURC作成

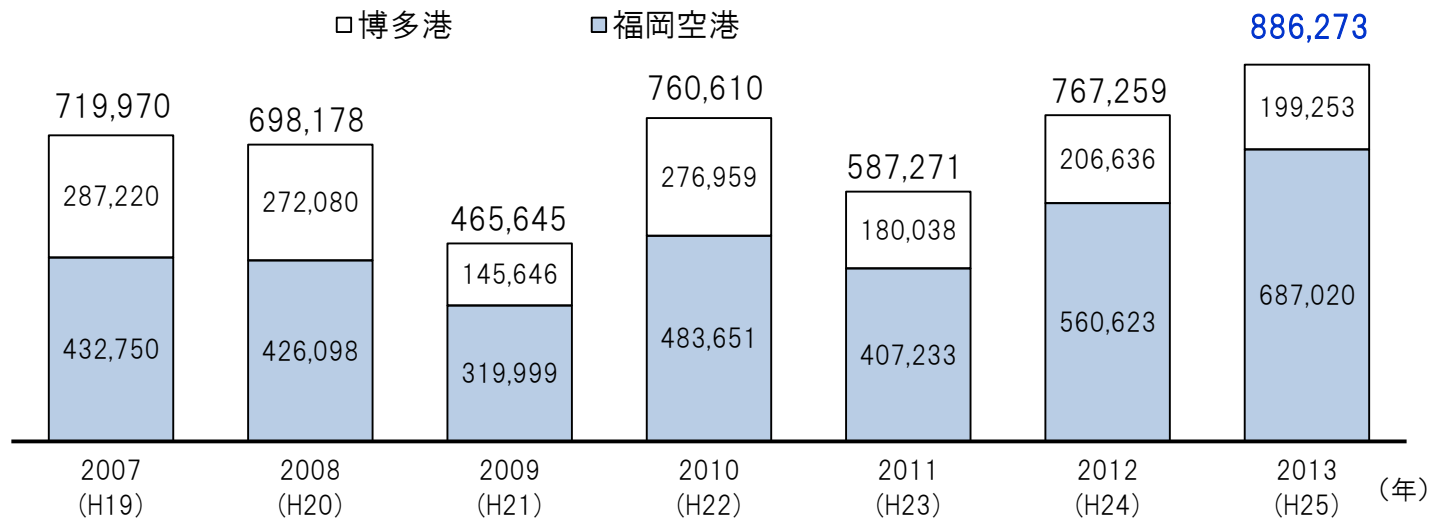
**福岡市を含む職業安定所を全て合計しており、福岡市以外も一部含まれる

※雇用保険資格取得者とは、その年に新たに雇用されるなどして雇用保険資格を取得した人
その年の雇用動向を推しはかることができる

国際都市として増え続ける外国人来訪者

福岡市入国外国人の数推移

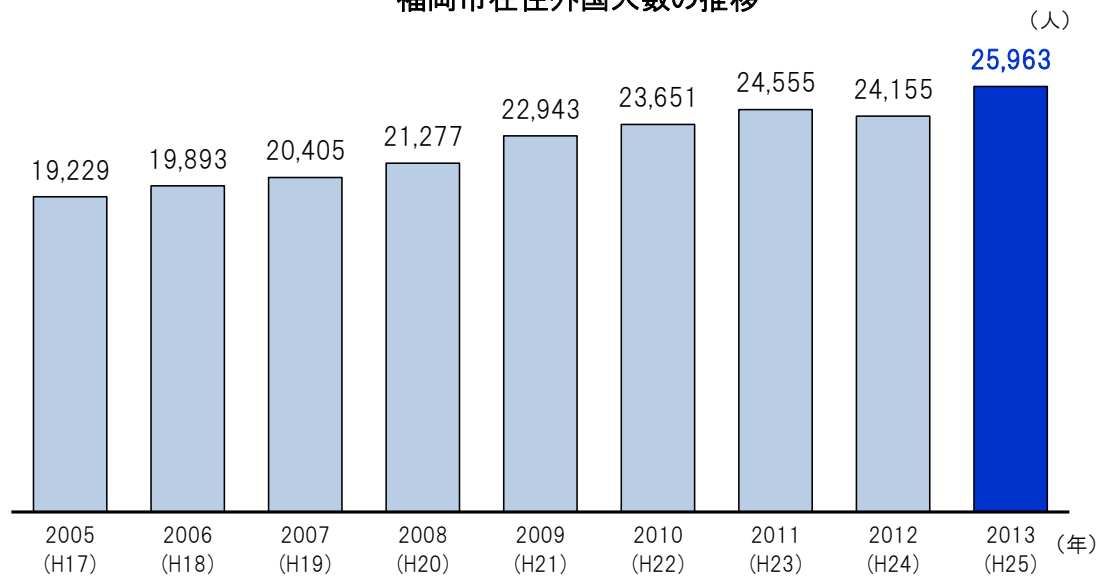
(人)



資料：法務省「出入国管理統計」

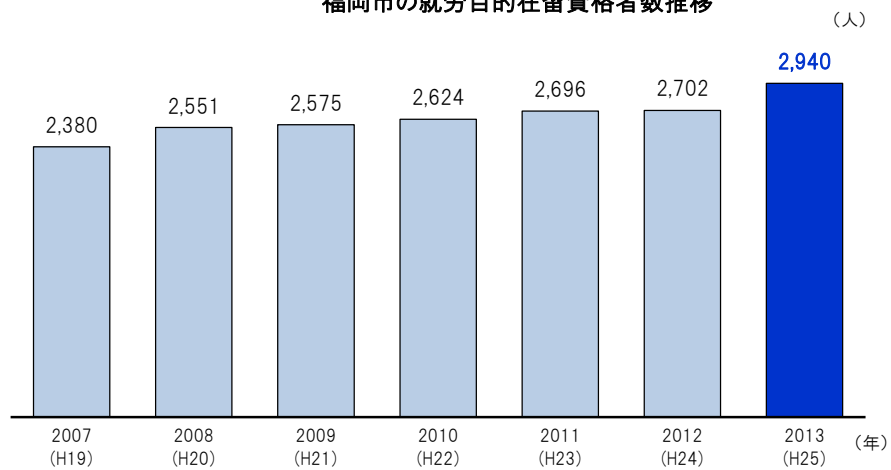
外国人人材の増加

福岡市在住外国人数の推移



資料：2011年以前は「外国人登録台帳」、2012年以降は「住民基本台帳」

福岡市の就労目的在留資格者数推移

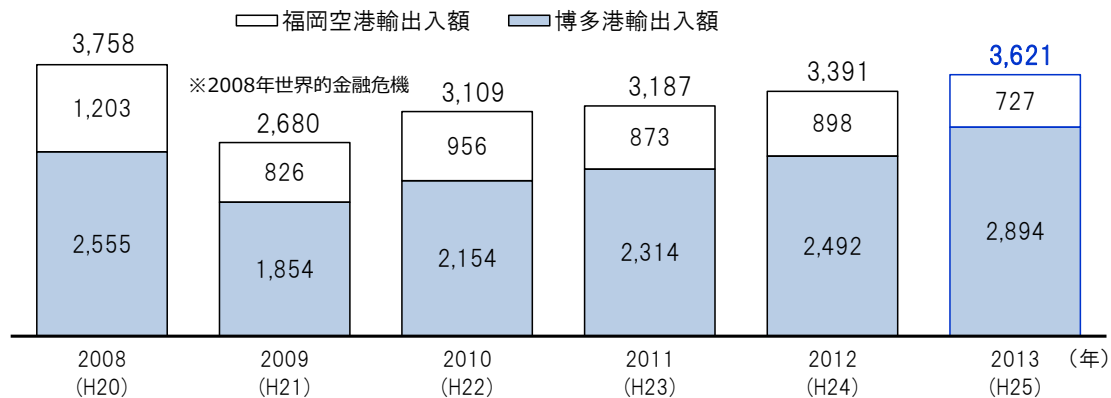


資料：2011年以前は「外国人登録台帳」、2012年以降は「住民基本台帳」

拡大を続ける国際貿易

福岡市(博多港・福岡空港)における貿易額

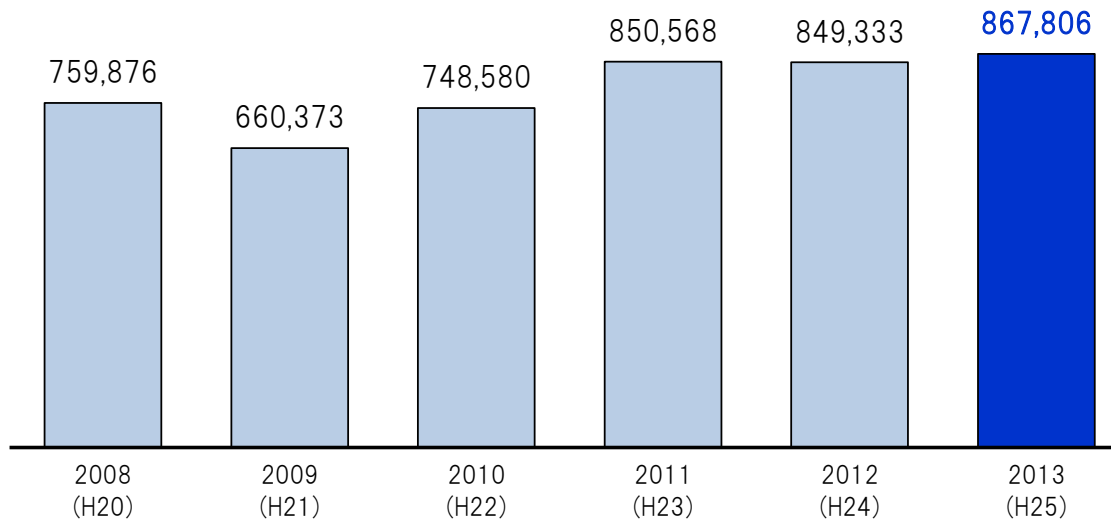
(十億円)



資料：財務省「貿易統計」

博多湾国際海上コンテナ取扱個数推移

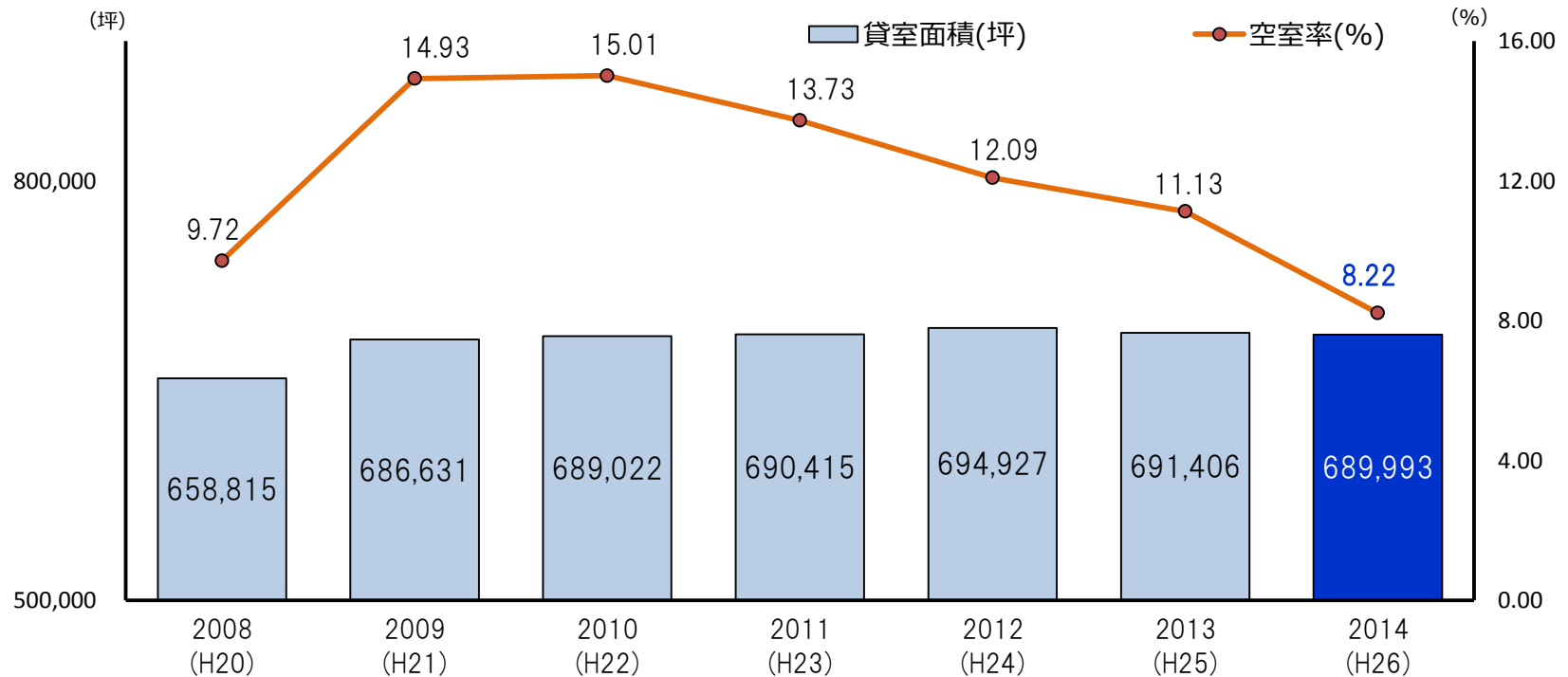
(TEU)



資料：福岡市港湾局「博多港統計年報」

中心部オフィスビル「空室率」改善傾向続く

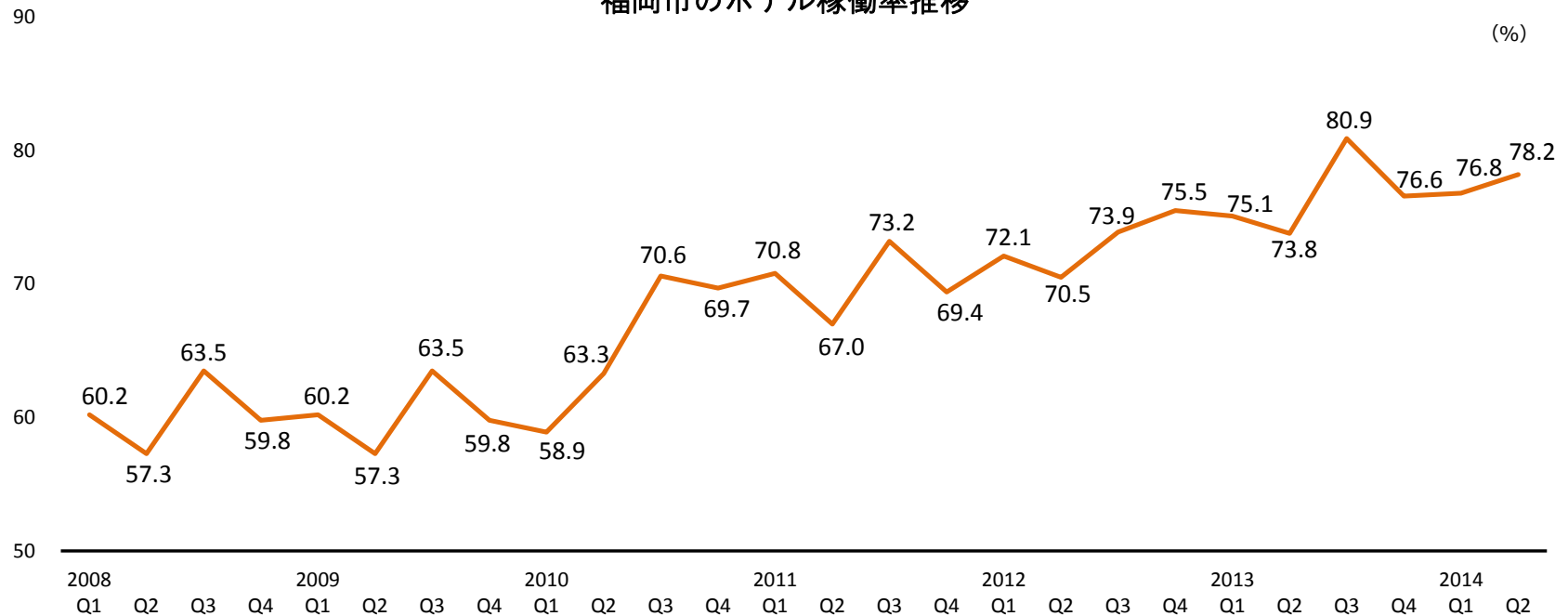
福岡市の中心部オフィスビル貸室面積と空室率推移



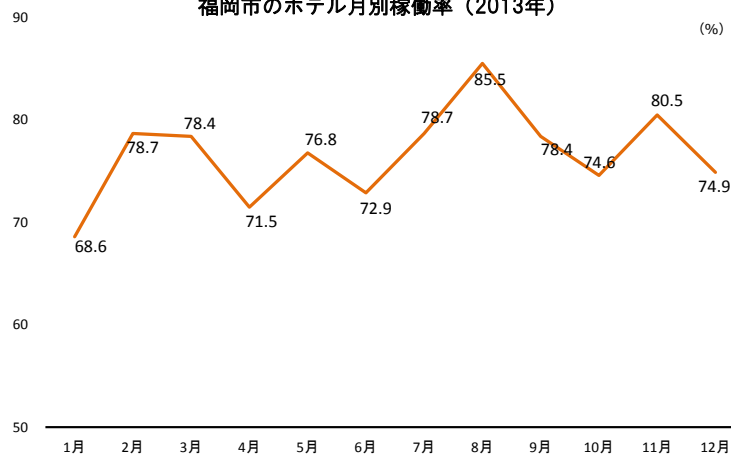
資料：三鬼商事株式会社オフィスデータ（各年9月時点）
*福岡ビジネス地区内にある延床面積が100坪以上の主要貸事務所ビル

市内ホテル客室稼働率80%前後に上昇

福岡市のホテル稼働率推移



福岡市のホテル月別稼働率（2013年）



資料：宿泊旅行統計調査（観光庁）*従業者数10名以上ホテル
 *Q1：1-3月、Q2：4-6月、Q3：7-9月、Q4：10-12月

資料：宿泊旅行統計調査（観光庁）*従業者数10名以上ホテル

“上昇気流”の背景

福岡市の人口集積
(人口増加率政令指定都市中1位)

市場規模の拡大(後背地: 1300万人が住む九州の強み)
サービス業の隆盛(スモール・スタートアップの容易さ)

若い人が多い
(若者率政令指定都市中1位)

スタートアップ企業の人材確保面で優位性(SU後の成長見通し)
若い人の選択肢の増加(就職・起業・起業準備を兼ねたSU企業への就職など・・・)
若い人はイノベーションの恩恵を受ける期間が長い(自らイノベーターに)

福岡市の防災面での評価
(東名阪等と比べ低い大災害リスク)

2011年を境に企業のBCP(事業継続計画)への関心向上
国内各拠点機能の見直し→相対的な福岡市の強み

スタートアップ企業の
支援と受け入れ土壌

「スタートアップ都市宣言」(2012年市民や内外に発信)
「スタートアップ」を身近に感じることで次の「スタートアップ」が生まれる
市民の「将来起業意思*1」= 19.5% → 「身の回りに創業者がいる人」の意思= 38.4%
市民の「起業家応援意向*2」= 53.5% → 「身の回りに創業者がいる人」の意向= 75.0%
平成25年度市政に関する意識調査*1「起業・創業するつもり」+「条件が整えば起業・創業するつもり」計
*2「応援したい」+「どちらかと言えば応援したい」計
地域の企業とスタートアップ企業の協業事例
2012年起業の「(株)からくりもの」開発アプリ「バスをさがす福岡」を「西鉄」が「西鉄バスナビ」公式アプリ化

福岡市の暮らしやすさ認識・浸透
(モノクル10位など)

クリエイティブ・クラスなどの転入誘引
コンパクトなまちで効率的にビジネス可能・容易なコミュニティ形成

福岡市外(海外など)からの人や資源が続々と流入している(内的要因の認識が市外・国外にも広がっている)

国際都市としての存在感向上
(外国人来訪者・居住者増加)
(国際物流拠点化)

外部からの人や企業の集積による新たな価値の創造・コンプレックス
ビジネスチャンスの拡大
M I C Eによる最先端情報や価値の共有

福岡市の持つ強みと外からの人材や資源の流入の相乗効果で、
福岡市経済の上昇気流が生まれてきている状況
・スタートアップの増加・経済活動の活性化・

国内経済
アベノミクス効果

上昇気流に吸い寄せられる次の波 経済の好循環へと進化させるチャンス

この上昇気運を確実なものとし、さらなる経済の好循環へと結び付けるために、
この流れを踏まえた長期的な戦略と、特区制度の活用による
中短期で着実な成果を導く施策を継続していくことが重要といえます。